

215  
2057  
32



おのゝのよし



ナラシメのよ一

あす乃ら一ひ糸ううろろ大船のほおふゆき

あゆ一ひこまう判友は流んしてう今

るん改め守事るちの後小あう守あきれ平

あゆこいよとえ作りその改判してる流るんる

弓乃上<sup>ちやうど</sup>ととく一夫<sup>や</sup>りよとの流ちやうあり

る一獲くひこ海人た拍い流んしてあ

やうくく一や只流るまのまくと流きまはうま

糸てらうこの後あ一ひりなんとお知あ

あゆき糸する事一ひとあすくいとあうけ

あゆき糸する事一ひとあすくいとあうけ

中陸おとまふりうら 約引こまよせくおのりころこ  
 ち〜ぬら〜またう大せいひく入ておま〜まら  
 ちん乃海人とと渡らとまら一アまら海うハ  
 子連その〜母〜ろきいさ 夏山あつたけや善義海  
 里乃本の志こにひことこか〜とう〜くひとと  
 さんちやうそのきのえこよい〜く〜急なくと  
 目ゆたみをして急ちうりとんちふけ今  
 之あろさ寸眼くち〜さんまをひまめの目此  
 うらよ射あふ〜とらそ大幸〜ら





治ふまつとてあまは先帝とて一めまり  
 成一門おなぐハ右大臣む縁りり伍子の申お  
 とまの位か抱ありりり益人のたまなり  
 めり志也里乃たまはのり終世のくもりの  
 法のさそそうううよとのくハ三升のそうは  
 きんあむまうめいとうのあしや里やんせう  
 一乃あきまうのふあんとそそあひりらる  
 てい越中一乃はく共傍上総のあ郡共傍あ七  
 共傍京法ひこの三郡ああつは人くとさ記と  
 一して流國乃あめりやうきんむりうりむ  
 一もよあつあそあつとあつとあつとあつと  
 とそそそあつとあつとあつとあつとあつと



さらさらのくらくらと海をこぎよのまゝに大船はくしめ  
 舟り浅列ふらぬとの相列ふまこととのぬきろ  
 乃らもんしやのまはまりもあえの太舟あけ  
 りへう乃乃交の孫三郎ともはま山るさうとん  
 坂さ紀とて源氏六子余孫のる記さへさうり  
 と母りらぬぐ村やあてんまもん村やもんせ  
 ひとてふあせをめぐりてあいに成城のうでに  
 りーち守うしあひうまうあふちらあちむま  
 たら松屋くらり八橋ををりりたりは元暦え  
 年三月十八日の事さうよまのふ吹あり西

乃風のまじりたるこゝろをあらはれしむるまじりたる  
 本乃のりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 終るまじりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 城かゝせんまじりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 ちま風いそげまじりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 くらとまじりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 あけ六さのり乃のまじりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 てわりのりたるまじりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 そくらひまじりたるまじりたるまじりたるはなはたしむるまじりたる  
 あらまじりたるまじりたるまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる

くらむをり持つるゆゑよあせ張るあま  
 川をうめをまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる  
 が城ひまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる  
 八橋大なりまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる  
 きせんとまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる  
 氏神八まん乃はなはたしむるまじりたるまじりたる  
 ちま風いそげまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる  
 あらま風いそげまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる  
 とまじりたるまじりたるまじりたるまじりたるまじりたるまじりたる

はまのつとむそあまひららとあのみ羽羽ろ  
 くーとまようあまふらまわーりあんと思ひ  
 志のよふのりあゆ人のものまひまふをーあて  
 こー乃あまふよあまのあまふー里羽二三  
 変らりくとうひてまてまねて源氏平あひ  
 世流ししてあまののあまそまーすとあめ  
 ね人こまうあまふりあまふ







日中一番乃とまきとふをくらぬ人としてまき  
 よふとこころくらふ連 雲いあはれ毎紀い  
 さくら夏い又取の花林を七夕のあはれのうそ  
 歌にせきすくたぐく見ゆらいたまはあ  
 をくつろ乃まきとて名残の海むとけけ  
 らうく びあ地のけりこうもい七片ひえれ  
 まわのほまよとりうひれせむいおほのうら  
 おるくかまうひんさう髪とわけあうりまよ  
 めーの村はあやう毎日中ひろ志とやた  
 花のこもこよとこめうりうら海を子聖流

うげるとん尸たくまむとを何とあんとせり  
 たり城さげていし門を城村ううひうそく  
 まらと村まきとまきあふく一城村あふ三城  
 うそくまうみめとりうとけやせたりまめの  
 るんまめううううくもてのるんとあ  
 そとせと 神ううて立うらあ かなをら  
 う赤川うううすともあてまのそをうら  
 つま ちうのううううらあふ入事  
 のううらとあはれにううまのうらあ村と  
 そのとあひてうううううううううううう



三人張はりふ十三束たばのくうとうらほくひ  
とすうとるひのりる連とさりくと  
むさあかりうくはよとさあちきり

せい兵乃のり矢のくせとてまかおはるる  
 すまあひくくとと後なりしてあまきれ  
 くまてのきとほひふ川と封切よりあふきふ  
 やうのそのなまはまなれしくさうとらり  
 かみさきりよくと後なりして大臣あれ  
 弟とれころは産能のせうひれうりあし  
 まやうへさうやと入まりきり平家三百六子  
 余給いたりやころの源氏いより屋あよるん  
 と志と一いありま川海らた約いゆらん  
 して妹ありとほらもうまて後とく後とんと



せい兵乃

ころあひこる一とくくしくと部んまひて  
 あん乃さうとのまらをいも部りせとを  
 うらまきとふかのまやこにつまきあはらまん  
 来へらるる頼約りくくとす祿ぬるりと法統  
 して部うくは判破りくさうく二門の法をん  
 終りり一門のころにむき法達所部入とくさう  
 けくききき

